

参加者、
在原、秋元、浅田、市ノ川、河原、北島、小海、幸田、
田中、高橋、中島(邦誠)、並木、町田、山岡、山下、
安田、吉村、吉本、遊佐、
ゲストー佐藤、佐藤(陽)、川村、川口、
お見送り一元メンバー柴崎、

BMW RS Club

May 9, '99

萌えたつのような新緑の中で
明治の雰囲気に触れた休日、
かわらばん-中島邦雄、挿絵-小倉玲子

かわらばん

五月に入つてすぐに奥秩父にそびえ、イザナギ~イザナミの両神を祀るという「両神山-1723M」に登つきました。登るほどに静けさの中で清流が足元を洗い、木立の中からウグイスの声が響きわたつてきました。目にしみるような新緑と、ちょうど咲き始めたアカヤシオツツジの間を、生まれたばかりの風が爽やかに吹き抜けて行きました。この季節を待つていたかのように、ハシリドコロが恥ずかしげに下向きに紫の花を付け、一本の茎から二つの花を咲かせるニリンソウが其処ここに群生し、いろいろな草(スミ)や小さなリンドウが、可憐な花を咲かせていました。里ではもう初夏に向かう日々ですが、山の中ではやっと遅い春を迎えた、そんな自然の息吹に満ち溢れているかのようでした。北アルプスの峰々では五月の陽光に雪が解け、黒い山肌が様々な模様を描き出す「雪形」がくっきりと見え始めたとか。雪に埋もれていたあの山や峠へ、我々が走りに行くのももう間近なことでしょう。

「目には青葉、山ホトトギス初ガツオ~素堂」とうたわれていますが、教養に満ちあふれたRSクラブのメンバーが、初鯉で酒を飲むばかりが能でもなかろうと、初夏の青葉をめで、ホトトギスの声に耳を傾けようと思ったのか(?)今回遊佐ちゃんの計画で、緑萌え立つ日光方面へバイクを向けました。

東北道「蓮田SA」に次々と仲間やゲストの皆さんのが集まり、実に24台の大所帯で予定通り八時半の出発となりました。やや曇り気味ながら薄日も差し始め、走るほどに緑に包まれた遠くの山々が近付いて来ました。ちょうど30分で川口より90キロ先の「鹿沼IC」に到着しましたが、かなりのスピードで走っていたことが分かります。国道を逆に走り、すぐ先でUターンをしましたが、曲がらずに走つたメンバーが居て誰かが後を追い、その間に近くのスタンドでガス補給をしました。これで帰り着くまでガスの心配は有りません。

国道から県道に入り、途中でマラソン・コースの中を抜けましたが、世話人やらお巡りさんが沢山いて、その中を走つていると、なにか偉くなったような気がしました。やがて道は段々と狭くなり、正面に社(れい)の有る三差路で「小来川・清滝線」に入りました。急に今までとは違つた感じの道になりました。この辺りは未だ寒さが残つてゐるのか、八重桜やツツジそしてフジが道路わきに咲き、ハナミズキも奇麗な花を付けていました。やがて道はますます細くなつてきましたが、小来川の清流が右に左に現れ始め、場所によつては奥入瀬のあの景観を思はせるかのようでした。所どころで釣り人が糸をたれ、周囲の山々では深い緑の木々の間に、生まれたばかりの新芽を付けたサミドリ色の木々が顔を出し、如何にも山里の遅い春を告げてゐるかのようです。車の通りが少ないので、砂の浮いた所が多くて肝を冷やし、急なカーブの連続に冷や汗を流してゐる内に、日光和の代温泉「やしおの湯」に着きました。入り口に花の終わつたアカヤシオツツジが新芽を伸ばしていました。露天プロで周囲の景色を眺め、ウグイスのさえずりを聞きながら湯につかり、ワイワイ・ガヤガヤとバカ話をしていると、本当に気持が休まり男同士の付き合いの良さを、シミジミと味わえた一時でした。「やー、いい気持だ、ビールが飲みたいよ」と町田さん。「ダメですよ、10分走れば食事の場所に着くんですから」と遊佐ちゃん。喉を乾かしたままで出発しました。この風呂屋の前で若いオバサンが、シドキという山菜を売っていました。ややモミジに似た葉でなんとかモミジとも言うそうですが、つまんだら旨いで買って帰りました。家に帰つてからサット茹で、言われたとおりにカツブシをかけて食べたら、口中に春の香りが広がりました。

其処から一走りで日光東照宮で、車も増えてきたなと思ったら、お目当ての「明治の館」に到着しました。目にしみるような緑と花に包まれた邸内に入ると、一瞬、一世紀前の世界に返つたかのようです。11時30分でした。人気のスポットらしく大勢の客が待つていていましたが、予約のしてある我々は古びた階段を上がり、二階の貸し切りの間に入りました。とても格調のある部屋で、鹿鳴館での食事は、きっとこんなものだったかなと思いました。ここは日本に初めて「蓄音機」を輸入して財を成した、アメリカ人のF・W・ホーンが彼の別荘として明治後期に建て、「乱れ石積み」の石造り建築で、18世紀に流行したジョージアン様式を用いてゐるとか。こういう処で飯を食ふと、同じビールでも違つた味に感じるから不思議です。(フロ上がりだったからかな?)結婚式で食べるようなステキなオードブルでビールを飲み、各々が好みの物を食べながら、我がクラブの20周年記念ジャンパーのお披露目が有りました。早速に注文をとつたところ20数枚ものオーダーが有りました。紺とシルバーの二種類でフードが付き、裏地が張つてあり冬向きですが一般的にも着られる感じで、とても素敵でした。

日本庭園を歩き、ボケやツツジに囲まれて記念撮影を済ませ、明治の良き時代の雰囲気を十分に味わい、帰途につきました。半数ほどの仲間が高速で直接に東京へ向かい、残りの者は足尾方面に向かって走りました。草木ダム湖が左手に見え始めると、湖畔は見事な八重桜やフジの花に彩られ、都心より遅い春を心より満喫しました。なにか得をした思いです。



桐生へ走り継ぎ、大間々の町に入って、ここで一服しました。沢山のツバメが飛び交い、いかにも田舎を思はせる中で小休止。先程のお釣りが残つてゐるからとの遊佐ちゃんの言葉に従い、ありがたく皆で冷たいものをオイシク飲みました。大間々警察署の真ん前なのに麦のジュースを飲んでいた人は誰だったっけね? そうだ、書かない約束だよ。

混み合う街中を抜けると急に道が広がり、いやはや皆さんの飛ばすこと。離れるわけにもゆかずに後を追いましたが、コンスタンツに100キロはオーバーで、途中で白バイが車を捕まえていましたが、そ奴に追われては大変と又々スピードを上げ、無事に「佐野-藤岡IC」に到着。思わず顔を見合させて、みんなで「早かったね~」と大笑いをしました。「蓮田SA」に結集して一休みした後で、再会を約して解散となりました。

今日の幹事の遊佐ちゃん。本当にご苦労様でした。素敵な処で食事をして、何かハイクラスな人間になったかのような一日でした。ゲストの皆様もお楽しみ頂けましたでしょうか。